

# 相馬地区住民アンケート結果報告書

～一般公開資料～

アンケート実施：令和7年4月

報告：令和7年6月

相馬地区地域おこし協力隊

(加賀 新一郎、穂坂 修基)

# はじめに

謹啓 相馬地区の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
相馬地区地域おこし協力隊（加賀新一郎、穂坂修基）は、令和7年4月に相馬地区に居住する12歳以上の全住民を対象にアンケートを実施いたしました。実施にあたりましては、各町会の町会長、班長、そして住民の皆様にご多大なご協力を賜りました。誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。弘前大学大学院平井太郎研究室のご協力により集計がまとまりましたので、集計結果を報告させていただきます。

謹白  
令和7年6月  
相馬地区地域おこし協力隊（加賀新一郎・穂坂修基）

## 回答率:50.1%!

相馬地区にお住いの12歳以上の住民2,555人を対象にアンケートを配布（施設に入居している方を除く）。1,281人の方から回答をいただきました。回答者の年代・性別は以下のとおりです。

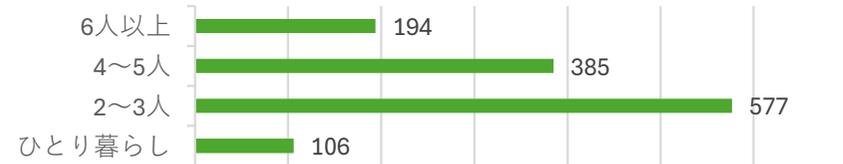
年代及び性別構成（人）



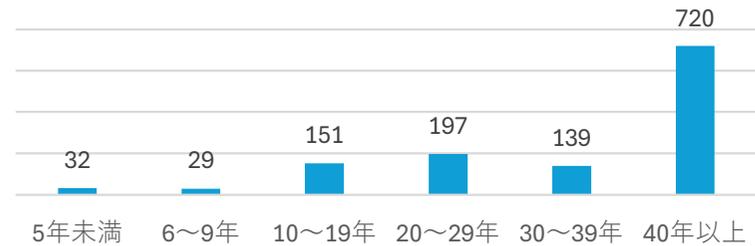
# 相馬地区の姿

ご回答いただいた方々の属性は以下のようになりました。

同居家族人数（人）



居住年数（人）

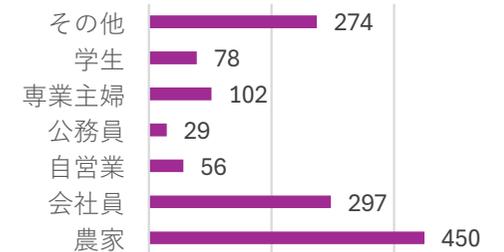


## ~考察~

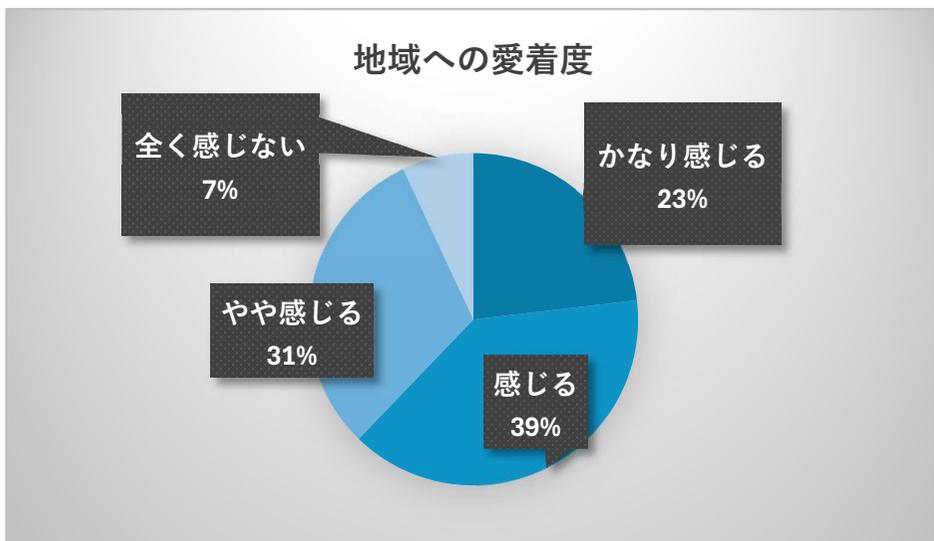
年代構成の主流は60代・70代で、全体の43%を占める。すぐ下の50代、40代との人数差が大きく、10年後には生産年齢人口の大幅な低下が予想される。とくに、職業でもっとも多い農家は、後継者問題がより深刻化してくる

と思われる。居住年数は40年以上の人が圧倒的に多く、相馬地区には永く住んでいる人が多いことがわかる。次頁で取り上げるが、その分、地域への愛着を感じている人が多い。一方で、居住5年未満の住民も意外といて、今後の取り組みしだいでは、流入人口の増加もけっして不可能ではないのではないだろうか。

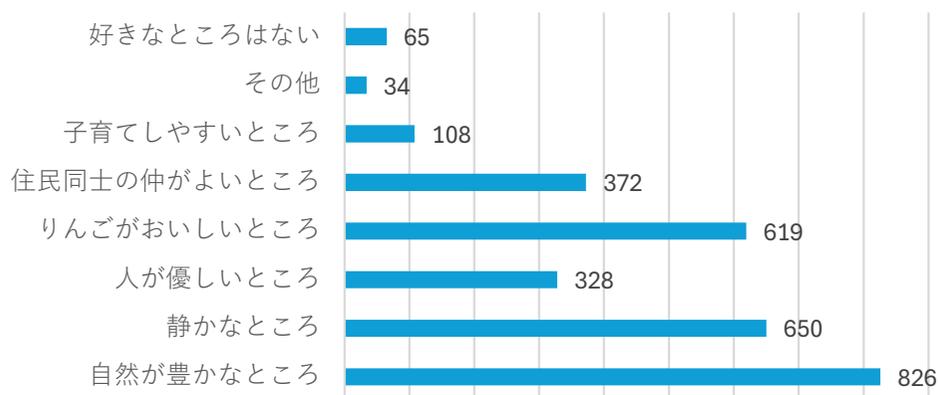
職業（複数回答・人）



# 相馬への愛着



相馬地区の好きなところ（人・複数回答）



## その他内容

・空気がおいしい ・大きな災害がない ・犬の散歩がしやすい ・川がきれいになった ・顔なじみが多い ・山の食べ物が獲れる ・夜空がきれい ・野生動物と共生できる ・星がきれい ・治安がいい 雪国だけに春の喜びが大きい ・除雪が迅速丁寧 ・水がおいしい ・岩木山が近い ・のんびりしている ・スーパー、コンビニが近い ・温泉がある ・小学校の指導がいい ・長慶苑のデイサービスがいい ・学校教育等に地域住民が非常に協力的

## ～考察～

### “相”思“相”愛!! 93%が相馬愛を持っている!

「かなり感じる」「感じる」「やや感じる」を合わせ、93%の人が相馬地区に愛着を感じている。旧相馬村という独立した自治体だったという歴史的背景に加え、回答者の多くが40年以上在住という特性によると思われる。いずれにしても、地域を愛しながら長く住んでいる人が多いという結果は、相馬地区を住みやすい地域と思っている人が多いと言い換えることもできるだろう。今後は、相馬のいいところを損なわないようしつつ、人口減少など環境の変化に対応して、より住みやすいと思ってもらえる取り組みが必要となるとと思われる。

### 豊かで静かな自然、おいしいりんごが相馬の売り!

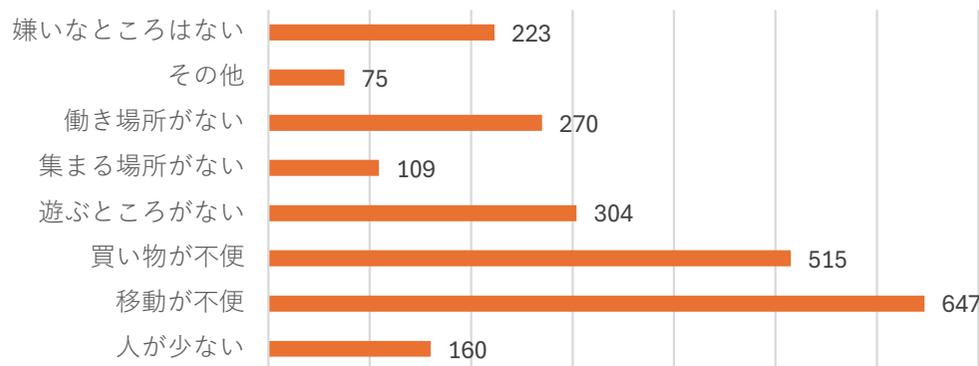
では、相馬の魅力とはなんだろう? 最も多かったのが、自然の豊かさで、静かさ、りんごと続く。いずれも市街地にはない相馬特有の恵まれた環境で、今後もこれらを維持していくように取り組んでいく必要がある。これらはいわば地域資源ともいえる宝なので、これらを生かす方向で関係人口・流入人口の創出や経済活動を考えていくのがベターだと思われる。とりわけ、りんごについては、後継者問題を含めて生産体制の維持に取り組むべきだろう。また、「子育てがしやすい」という回答もけっして少なくなかった。「子育て」分野でもさらなる取り組みをしていくことで相馬の魅力が増していくだろう。

## 寄せられたおもなコメント

- ・住めば都、相馬の全部が好き!
- ・有事の際にもわりと安心していられる地域だと思う。
- ・山や川を利用して人が集まるところをつくれればいいと思う。

# 相馬の嫌なところ・困ること

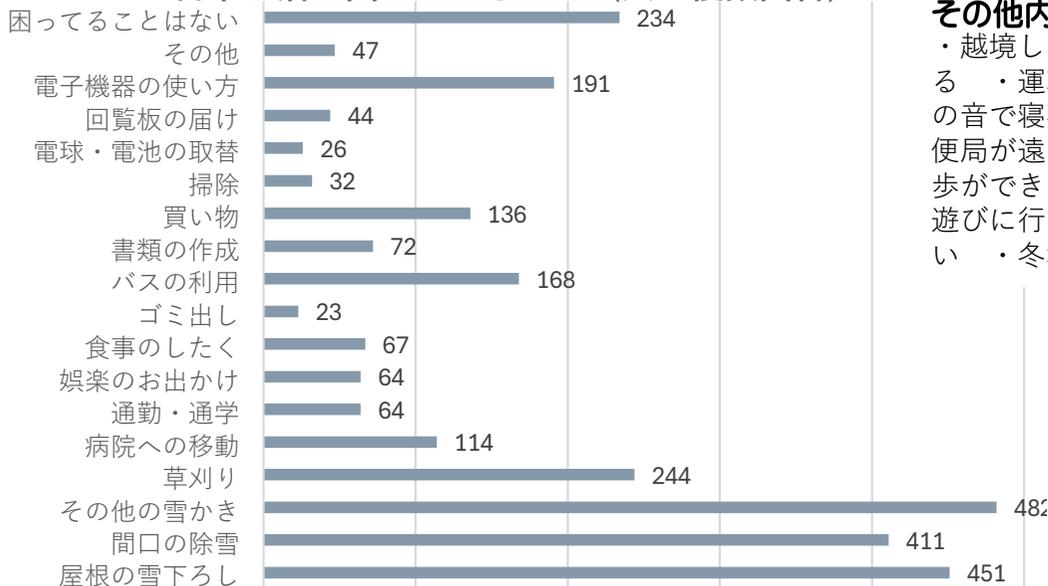
## 相馬地区の嫌いなところ（人・複数回答）



## その他内容

- ・病院がない
- ・カメムシが多い
- ・動物が多い
- ・地区の行事が多い
- ・バスが不便
- ・電波が悪い
- ・古い習慣が多い
- ・住民間で協力する姿勢があまり感じられない
- ・雪が多い

## 日常生活で困っていること（人・複数回答）



## ～考察～

### 移動の不便さ、雪かきが相馬の最大の課題！

やはり移動に難儀している人が多い。通院や通勤に加え、買物への移動もクルマを持っていない人には大変なようだ。地区内唯一の公共交通機関であるバスも減便や西目屋線との統合により利便性が低下していて、免許返納者が増えるだろう今後、バスに連携した乗り合いタクシーのみならず、地域内コミュニティバスの運行など、新たな移動支援システムが必要になると思われる。雪かきについては、今年の冬が過去最高クラスの大雪に見舞われたこともあって挙げる人が多く、重機などが無いご家庭はかなり大変だったようだ。特に高齢者世帯については、町会やブロック内等で共助するような仕組みが求められてくるとと思われる。

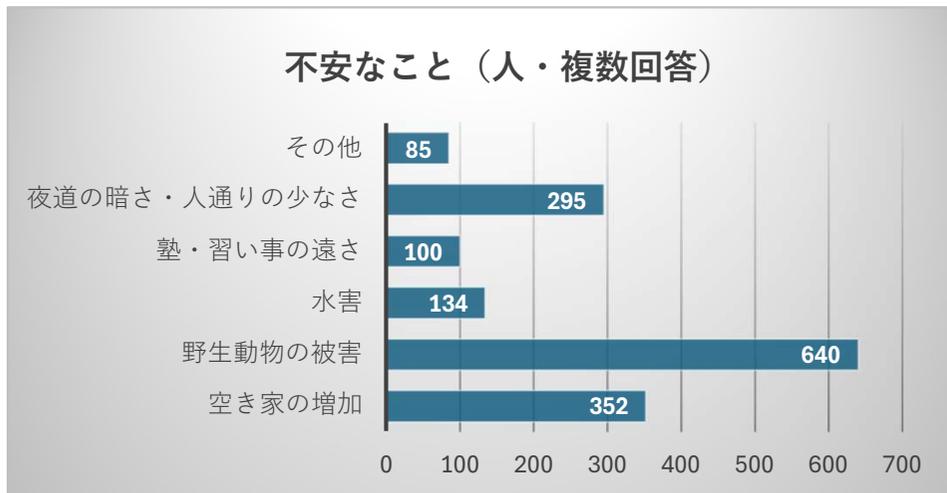
## その他内容

- ・越境してくる近隣の木や果実
- ・クルマの放置
- ・道路が悪すぎる
- ・運転の荒い人が多い
- ・インターネット光が来てない
- ・除雪機の音で寝不足
- ・道路が狭い
- ・ネコの糞
- ・お墓の管理が大変
- ・郵便局が遠い
- ・ATMがない
- ・町会費が高い
- ・クマが怖くて朝晩の散歩ができない
- ・コンビニのゴミに迷惑している
- ・バスがなく老人が遊びに行けない
- ・地区内放送がうるさい
- ・運動できる施設がない
- ・冬場の働き口がない（農家）

## 寄せられたおもなコメント

- ・野良猫に餌や住処を与えている人がいて、糞尿等に迷惑している。
- ・行ってみたいイベントが地区内にない。
- ・相馬総合支所の職員が無能すぎる。知らないことが多いし接客も悪い。
- ・ロマンティアの活用が下手だと思う。
- ・電子機器の操作などを相談できるところが常設されているとうれしい。
- ・住宅と農地が近すぎて、煙や薬、またスプレーヤー等の騒音が迷惑。
- ・「嫌いなところ」のすべてが相馬の今後の課題。

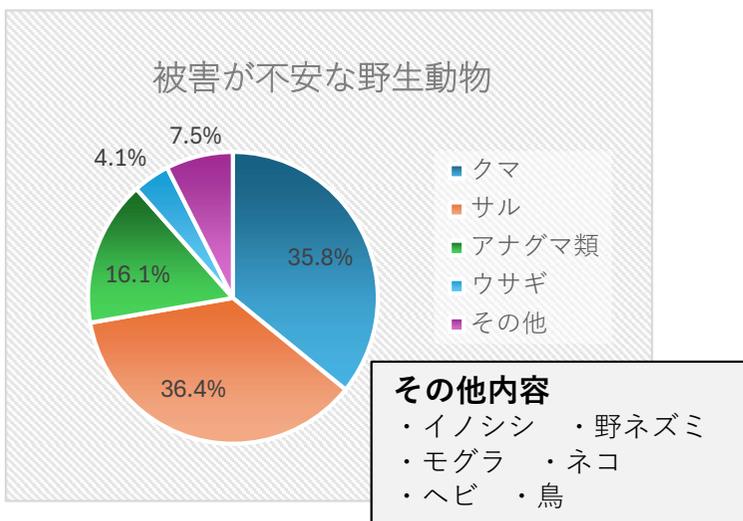
# 相馬の暮らしで不安に思っていること



※「野生動物の被害」は下記に内訳あり

## その他内容

・免許返納後の移動方法。・物価高騰 ・施設入居の費用 ・緊急時に対応できる医療機関がない ・街中の防犯カメラがない ・街灯が少ない ・放置された農地 ・りんご農家の高齢化 ・孤独死 ・カーブミラーが曲がっていたり曇っていたりして見にくい ・土石流 ・外国人窃盗団（アルミホイールなど）



## ～考察～

### クマも怖いですが、“猿害”が深刻！

日々の暮らしの中で相馬の人々が最も不安に思っているのが、野生動物の被害だった。農家の方が多いためだろうが、農家以外でも不安に思っている人が少なからずいるようだ。とくに近年、クマの目撃件数や被害が頻繁に報道されており、相馬でもクマに対する警戒感が高まっている。もっとも、左下のグラフを見てもわかるとおり、農家にとってはクマよりもサルの被害が深刻だ。今後、より効果的な“猿害”対策が求められる。

ちなみに、下のコメントにあるように野良猫に困っている人も少なからずいる。特に民家が多いところではトラブルのもとになる場合も考えられ、今後、何らかのルールづくりが必要となるかもしれない。

### 地域ぐるみで防犯強化を！

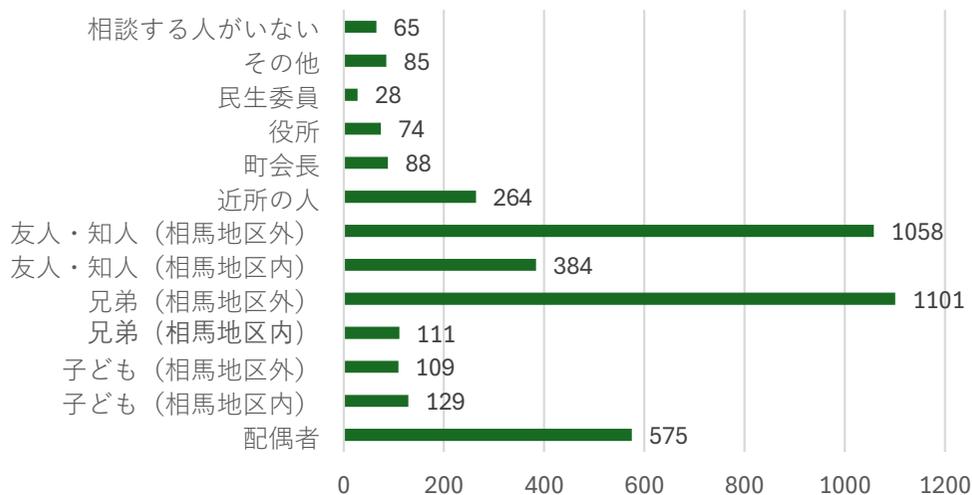
また、夜道の暗さ・人通りの少なさに不安を感じている人も多い。中山間地域特有の致し方ない点ではあるが、最近では弘前市内で不審者情報がまことしやかに流布されたり、詐欺被害が増加していることもあって人々の防犯・治安に対する不安が高まっていると思われる。街灯の設置はむずかしいにしても、駐在所と協力しつつ、住民によるパトロールの強化など、お年寄りや子どもたちが安心して暮らせる地域づくりの方法も考えていく必要があるかもしれない。

## 寄せられたおもなコメント

- ・自転車通学の子がいるが、バイパス（弘前～西目屋）が自転車で入りやすく、整備してほしい。
- ・ラベンダーロードにせっきく中学生がラベンダーを植えても歩道が雑草で歩けず、道路もガタガタのままでもったいない。
- ・子どもの姿を見かけることがめっきり少なくなってさびしい。
- ・子どもがあそべる施設がなく、家でゲームばかりしている。
- ・地域内の団結力が希薄になっている気がする。
- ・りんご以外の特産品がないのが残念。
- ・古い家は道路より低くなっているところがあって家が堰より低く、たびたび浸水の被害に遭っている。

## 困ったときの相談相手は？

相談する相手は？（人・複数回答）



### その他内容

・遠くの親戚 ・両親 ・警察官 ・甥 ・ケアマネージャー ・包括支援センター ・いとこ ・市議員 サンタハウス（老人施設）のトレーナー

## ～考察～

### 相談相手は地域外が主流!?

困ったときの相談相手として多かったのは、最多が「地区外にいる兄弟」で2番目が「地区外にいる友人・知人」と続く。いずれも地域外で、相談内容の性質によるのものかどうか不明だが、地域の外にいる相手のほうが相談しやすいという傾向があるようだ。配偶者はともかく、「子ども」と回答した人が意外と少ない印象で、家族内で問題を解決しようとする人が少ない印象だ。さらに、「町会長」「役所」「民生委員」という回答が少なく、公的・中立的な立場で住民がもっと気軽に相談できる仕組みや機関の設置を考えていく必要もありそうだ。一方で、「近所の人」という回答がそれなりに多かったことは、住民の結びつきが強い相馬ならではの結果といえるかもしれない。これからも、住民同士の絆を失わないように地域づくりをしていくことが相馬が相馬らしくあり続けられるポイントのひとつと言えるのではないだろうか。

### 寄せられたおもなコメント

- ・自宅療養中なので、災害時に誰に相談して避難すればわからず不安。
- ・友人や知人がどんどん亡くなって、人との交流が少なくなってしまった。